



東日本大震災慰霊法要にて被害者の御霊を悼み焼香を手向ける参拝者(令和3年3月11日)



発行所
比叡山時報社
jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
〒大津市坂本本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年会会費(3000円)中
に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和4年比叡山から
発信する言葉
大悲
万行
すべての行いは大悲から

こちらから



ご購読は

比叡山では降雪もひと段落つき、陽光が時折差し込むようになってきました。春の訪れを予感させる毎年三月のこの時期になると、東日本大震災を思い出します。二〇一一年三月十一日十四時四十六分ごろ発生。三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東百三十キロメートル付近で、深さ二十四キロメートルを震源とする地震でした。発生から十一年という年月が過ぎた今でも、その地震の恐ろしさや津波被害の記憶が鮮明に蘇ります。

延暦寺では毎年震災当日に阿弥陀堂において慰霊法要が執り行われています。天台座主猊下大導師のもと、震災でお亡くなりになった方々の御霊がお念仏により西方極楽浄土の阿弥陀様のもとへ導かれるようにと読経の声が響きます。

大震災発生直後の当時、比叡山から山形県と宮城県のお寺へお米などの支援物資をトラックに積み込み、運び届けた事がありました。早朝に出発、道中交代で運転と仮眠をとりつつ現地へ向かい、限られた時間のなか、お見舞いを申し上げ、物資を必要としている各お寺へ届けたことを記憶しています。

お寺は信仰の場であり、葬祭や布教の場であるだけでなく、地域の人々の暮らしと強い結びつきのもと成り立ってきました。災害時お寺へ物資を運び入れることは、すなわち地域の方々へ届くということになるのです。

過去には災害が幾度となくおこり、また昨今には、近未来に大きな確率で発生すると言われる南海トラフ地震が大きく取り上げられています。その時には甚大な被害が出ると言われていますが、今般の新型コロナウイルス感染症を契機に密を避けるように指導される現在においては、震災や災害発生時の避難所などで、これまで通りの形で被災者の皆さんをお支えることは難しくなるかもしれません。

それらを念頭に、お寺として、また個人として何ができるのか、どのように行動すべきなのかを考える時期にきております。震災から十一年をきつかけに、最澄様のお言葉「一隅を照らす」「己を忘れて他を利用する」を現在社会に沿った形で実践できるように一度考えなければなりません。

東日本大震災を思い出して

